

語句解説集

■数字・アルファベット	
3R	Reduce（リデュース：ごみとなるものを減らす）、Reuse（リユース：資源を繰り返し使う）、Recycle（リサイクル：資源を再利用する）の3つの総称。
AI	Artificial Intelligence（アーティフィシアル・インテリジェンス）の略称で人工知能の総称。
ALT	Assistant Language Teacher（アシスタント・ランゲージ・ティーチャー）の略で、外国語を母国語とする外国語指導助手。
DV	Domestic Violence（ドメスティック・バイオレンス）の略称。配偶者やパートナーなど親密な関係にある人から振るわれる暴力のこと。
DX	Digital Transformation（デジタル・トランスフォーメーション）の略称で、IT技術の浸透が人々の生活をあらゆる面でより良いものへと変革させるという概念。
ICT	Information and Communication Technology（インフォメーション・アンド・コミュニケーション・テクノロジー）の略称。情報通信技術の総称。
Jクレジット	省エネルギー機器の導入や森林経営などの取り組みによる、CO2などの温室効果ガスの排出削減量や吸収量を「クレジット」として国が認証する制度。
LGBT	女性同性愛者（レズビアン・Lesbian）や男性同性愛者（ゲイ・Gay）、両性愛者（バイセクシャル・Bisexual）、性同一障害（トランスジェンダー・Transgender）の各単語の頭文字を組み合わせた表現のこと。
RPA	Robotic Process Automation（ロボット・プロセス・オートメーション）の略称。コンピューター上で行われる業務プロセスや作業を人に代わり自動化する技術。
SDGs	持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals）の略称で、2015年の国連サミットにおいて採択されたもの。
SNS	Social Networking Service（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）の略。インターネット上で共通の趣味を持つ人達との交流を目的としたサービスの総称。
UX	User experience（ユーザー・エクスペリエンス）の略称で、利用者がサービスを通じて得られる全ての体験を意味する。
■ア行	
アフターコロナ	新型コロナウイルス感染症が世界的に終息した後の社会のあり方。
インフラ	日々の生活を支える道路、水道、公共施設などの社会基盤。
オンライン納付	自宅や会社からインターネット経由などで電子的に納税手続を行うこと。

■カ行	
関係人口	移住した「定住人口」と観光にきた「交流人口」の中間となる、地域外の人が地域や地域の人々と多様に関わる人々のこと。
グローバル	政治・経済、文化などにおいて、国家・地域の垣根を越え、地球規模で資本や情報のやり取りが行われること。
高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施	75歳以上の高齢者に対する保健事業を市町村が介護保険の地域支援事業等と一体的に実施することができるよう、国、広域連合、市町村の役割などについて定めるとともに、市町村などにおいて、医療や健診、介護情報などを一括して把握できるよう規定の整備などを行うこと。
久山町地域強靱化計画	国の「国土強靱化基本計画」に基づき策定し、大規模自然災害などに備えて迅速に回復する強さとしなやかさを備えた国土や経済社会システムの構築を推進する計画のこと。
子ども家庭総合支援拠点	子どもの健やかな成長をサポートする場所として、特に要支援児童及び要保護児童等に必要な支援を行う業務。
コミュニティスクール	保護者や地域のニーズを反映させるために、地域住民が学校運営に参画できるようにする仕組みや考え方を有する形態の学校のこと。
■サ行	
財政力指数	地方公共団体の財政力を示す指標で、1に近い（あるいは1を超える）ほど財源に余裕があるとされる。
市街化調整区域	都市計画法に基づき、都市計画区域について、計画的な市街化を図るために一定のルールに基づき建築などを制限している。計画的に市街地にしていく区域（市街化区域）と、市街化を抑える区域（市街化調整区域）の大きく2つに区分される。
自然活動のフィールド	山や川、田畑などの資源を生かし、人々が自然に触れることができる場のこと。
自然増減	出生数から死亡数を差し引いた数値。
社会増減	転入数から転出数を差し引いた数値。
循環型エネルギー	環境負荷の少ない再生可能エネルギー。ここでは、木材などの資源を燃料として活用するエネルギー（バイオマス）をさす。
循環型農業	畜産や農業、家庭などで出る廃棄物を肥料に利用したり、農業で出るゴミを循環利用したりすることで持続可能な農業を成り立たせる取り組み。
食育サポーター	食べることの大切さを広める食育活動を応援するボランティア。
人口フレーム	フレームとは枠、骨格のことで、ここでいう人口フレームは目標年次における推計人口数（枠）のこと。
新国富指標	GDP（国民総生産・経済状況の指標）では測ることのできない、自治体が保有する富（自然や人の健康と教育、生活に必要な設備）を数値化する新たな経済指標。
水源涵養	森林の土壌が、降水を貯留し、河川へ流れ込む水の量を平準化して洪水を緩和するとともに、川の流量を安定させる機能。
スクールカウンセラー	学校に配置され、児童・生徒の生活上の問題や悩みの相談に応じるとともに、教師や保護者に対して指導・助言を行う専門家。
スクールソーシャルワーカー	学校を拠点に、不登校や家庭内暴力など子どもが抱える問題に対し、主に福祉的な視点から解決を図る専門家。
成年後見制度	財産管理や身上保護などの法律行為を一人で行うことが難しい場合に、判断能力の不十分な方々を法的に保護し、支援する制度のこと。
生物多様性	動物や植物、昆虫など様々な生き物がお互いにつながり合いながら生きる環境。
セルフケア	自分自身で自分の健康に気を付け管理すること。

■タ行	
脱炭素社会	地球温暖化の原因となる温室効果ガスの排出量を抑制するとともに、排出された二酸化炭素を数値上回収することで、数値上の吸収量と合わせて、排出量を実質ゼロにする社会のこと。
多文化共生	文化や民族などの異なる人々が、それぞれの文化や価値観の違いを認め、同じ地域社会の一員として、共に生きていこうとする考え方。
地域包括ケアシステム	要介護状態となっても、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができるよう、住まいや医療、介護、予防、生活支援などが一体的に提供される体制のこと。
テレワーク	ICT（情報通信技術）を活用した、場所や時間にとらわれない柔軟な働き方。
■ナ行	
認知症予防カフェ	地域の人たちが気軽に集い、認知症の人や家族の悩みを共有し合いながら、専門職に相談もできる場所。
認知症サポーター	認知症に対する正しい知識と理解を持ち、地域で認知症の人やその家族に対してできる範囲で手助けする人。
■ハ行	
ブランディング	ブランド（町のイメージ）をつくる・構築する、高める。
■マ行	
マッチング	異なったものを組み合わせること。
■ヤ行	
要保護児童対策地域協議会	要保護児童などへの適切な支援を図ることを目的に地方公共団体が設置・運営する組織のこと。
■ラ行	
ライフステージ	幼年期、少年期、青年期、壮年期、老年期など、生涯を段階区分したもの。人生の各段階。